プログレスレポート2022

インパクトを生み出す

ALLIANCE TO END PLASTIC WASTE

目次

取締役会議長のメッセージ 02
プレジデントのメッセージ 04
インパクト 06
インパクト指標の開発 12
実証実験ソリューション 14
ダンドラのごみの山に挑む 16
より包括的なシステムを目指すヨハネスブルグ 18
Inkwazi Isu：「南アフリカの遊び場」をきれいにする 20
都市とともに都市のために、リサイクルを再考する 22
ブラジルの都市に持続可能な未来を 24
プラスチック資源循環への投資を促進する 26
インドネシアで統合的廃棄物管理を大規模に推進する 28
LOVEREのスマートビンで循環性を提供する 30
チェンジメーカー：変化は教室からコミュニティへ 32
クローントゥーイで廃棄プラスチックのバリューチェーンを実現する 34
廃棄プラスチックに関するイノベーション、投資、包括性を推進する 36
循環性の問題を解決するために、日本の革新性を活用する 38
インパクトファイナンス 40
イノベーションを実現する 42
コラボレーションを促進する 46
財務概要 48
ガバナンス 50
ネットワーク 54

インパクトを生み出す

環境への廃棄プラスチックの流出をなくすことは、大きな課題ですが、乗り越えられない課題ではありません。

AEPWは設立以来、世界中のコミュニティに長期的にポジティブなインパクトを与え、有意義な変化をもたらすソリューションの創出に取り組んできました。私たちは複雑な問題に対する理解を深め、ソリューションに活かしています。

今この重要な時期に、AEPWは変革的な役割を担っているという自負を持っていますが、私たちがすべてを解決できるわけではありません。AEPWは、廃棄プラスチックの問題の解決に必要なソリューションを開発することで、インパクトを生み出すことを目指しています。

取締役会議長のメッセージ

ジム・フィッタリング
廃棄プラスチックを無くす国際アライアンス、取締役会議長;
ダウ、最高経営責任者（CEO）兼取締役会議長

廃棄プラスチックを無くす国際アライアンス（AEPW）は、環境に流出するプラスチックをなくすという明確なミッションを掲げています。過去3年間は、廃棄プラスチックの回収と管理を改善するためのインフラ開発とシステムへの投資というミッションに重点を置き、イノベーションの活用、アイデアのインキュベーション、新しいソリューションとテクノロジーのスケールアップを加速させてきました。

ダーバン（南アフリカ）で収集されたごみは買取センターに集められ、分別してから売却される。

私は、これまでの成長を基に会員企業、政府、市民社会との連携からチームが得た知識と経験を活かし、このアプローチの継続的な発展を監督する取締役会を率いることができて嬉しく思います。

今日、AEPWは廃棄プラスチックの管理とリサイクルの分野の技術的専門知識を高く評価されています。プラスチックバリューチェーン全体と協力する私たちのユニークなアプローチは、政府や市民社会だけでなく、金融機関にも評価されています。

取締役会は引き続き、廃棄プラスチックが引き起こす複雑な問題に対するAEPWの貢献を管理し、私たちのインパクトが最も直接的に伝わる地域コミュニティにおいて投資と意味のある活動とのバランスを図ってまいります。

会員企業の支援を受けながら、AEPWは新しいアイデアを生み出すグローバルラボ （実験室）として成長を続け、環境に流出する廃棄プラスチックをゼロにするための新しい技術、ビジネスモデル、ソリューションを推進していきます。2019年以降、私たちはソリューションアクセラレーターファンドを通じて、2億2,500万米ドルの資金を8つの地域の50以上のプロジェクトに割り当て、地域固有の課題に対応したソリューションの開発を支援してきました。

このような革新的でしばしば複雑なソリューションには、インフラ提供者、イノベーター、科学者、政府、コミュニティ、民間セクターとの強力な連携が必要です。ソリューションの数が増えるにつれて、環境に有益な、社会的に責任ある方法で、経済的に実行可能なソリューションを再現し、スケールアップするための資金を動員する上で、金融業界とのパートナーシップを強化することの戦略的重要性が増しています。

AEPWは多くのことを達成しましたが、やるべきことはまだたくさんあります。このプログレスレポートは、AEPWが断固たる決意でミッションの実現に取り組み、システム変革における触媒となっていることを示しています。

プレジデントのメッセージ

AEPWのプログレスレポート2022にようこそ。私たちは今年、AEPWの取り組みのインパクトを測定・報告し、組織の重点目標と成長を示すための手法を進化させました。

過去1年間、私たちはミッションの実現につながるインパクトの測定方法を再検討してきました。除去し、リサイクルされた廃棄プラスチックの量は重要な指標ですが、この問題の規模は大きく、全体として見ると、長期的に達成すべき規模のインパクトを生み出すには、トン数を増やすだけでは不十分です。

AEPWのミッションの中核にあるのは、環境中の廃棄プラスチックをなくしプラスチックの循環型経済への移行を加速させることです。そのため私たちは、経済的、社会的、環境的に持続可能で、再現性があり、スケールアップできるソリューションを世界中で開発することに重点を置いています。

今年のプログレスレポートでは、AEPWがどのように地域固有の課題に対応したソリューションを展開し、プラスチックの流出を防いで、循環性を向上させているかを、さまざまな事例を挙げてご説明します。私たちのプラスチック問題に対するアプローチは、インパクトを加速させるために、バリューチェーン、政府、金融機関、その他すべてのパートナーと協力し、成功したソリューションを異なるコンテキストや地域に適用して再現することです。

私たちはこのアプローチに自信を持っています。2022年には、転用・リサイクルされた廃棄プラスチックの量は大幅に増加しました。AEPWのプロジェクトとプログラムによって、70,000トン以上の廃棄プラスチックが転用され、リサイクルされています。これは素晴らしい成果のように見えますが、世界全体で見ると、必要な処理量のほんの一部に過ぎません。

AEPWは設立以来、取り組みを通じて、複雑なプラスチック問題に対する理解を深めてきました。私たちは、世界中のコミュニティに長期的にポジティブなインパクトを与え、有意義な変化をもたらすソリューションの創出に取り組んでいます。これまでの経験を活かし、ステークホルダーの声に耳を傾け、何が機能するのか、また同じく重要なこととして、何が機能しないのかに関する私たちの知識を適用しています。

グローバルサウスでは環境に流出したり、埋立地に運ばれたりした廃棄プラスチックを直接転用し、地方政府や金融機関との連携のもと、統合的廃棄物管理システムを構築し、地域コミュニティの廃棄物管理能力を向上させて、循環型経済を推進する取り組みを行っています。

グローバルノースでは、 循環型経済の実現に必要なイノベーションの創出に重点を置いています。これには、インテリジェントな廃棄物分別システムへの投資、多種多様なプラスチックをリサイクルする革新的なソリューションの開発奨励、再利用可能な包装材への移行が含まれます。

今後私たちは、会員企業の数を増やし、パートナーとのエンゲージメントを深めていきます。また、より明確で現実的な目標を設定し、独立した第三者機関による保証を含む、追加の測定と報告を行っていきます。

AEPWは、政府、企業、NGOの能力構築を支援するため、国や多国間のフォーラムに出席し、プロジェクトで得た情報やデータを提供しています。

私たちはこの重要な時期に、プラスチックのバリューチェーン全体の総合力を結集し、現状の変革に大きな役割を果たすことを決意しています。

ジェイコブ・デュアー
AEPW、プレジデント

1. GIRO Argentinaのモデルは、地元のごみ埋立地で働くウェイスト・ピッカーに雇用を創出した。
2. インドのシュンドルボン地域で責任ある廃棄物管理について学ぶ生徒たち。
3. Taka Taka Solutionsは、ケニアのナイロビで複数の廃棄物ストリームの収集、選別、処理を行っている。
4. LOVEREは中国の「インターネット・プラス」政策に沿って、新たな収集モデルの構築に貢献している。

インパクト

一つの組織だけ廃棄プラスチックの問題を解決することはできません。それでも、AEPWは、環境への廃棄プラスチックの流出を防ぎ、回収とリサイクルを大幅に増やすため、スケールに応じて再現できる多様なソリューションモデルの開発に協力することで、ポジティブな変化をもたらす重要な役割を果たしています。

現在私たちは、プラスチックのバリューチェーン全体から70社以上の企業と、地域コミュニティ、市民団体、政府間組織、金融機関、政府からなるネットワークを構築しています。この幅広いネットワークは、大きなインパクトを生み出すのに不可欠な、最高レベルの異業種コラボレーションを創出するのに役立っています。私たちは、プラスチックの生産者やユーザーとの直接的な協力があってはじめて、長期的に廃棄プラスチックに実際的かつ測定可能なインパクトを与えるソリューションを開発することができると考えています。

AEPWは設立当初から、2つの相互に関連する目標を掲げています。一つは、環境への廃棄プラスチックの流出を抑制する上で触媒的なインパクトを持つ、大規模な資金調達をし運用すること。もう一つは、プラスチックのサプライチェーン全体で廃棄プラスチック に取り組むために、AEPWの会員企業に会員独自の追加措置をとるよう働きかけることです。これらの目標は、AEPWのメンバーシップと財務目標に密接に結びついています。

AEPWによる廃棄プラスチックという多面的な問題へのアプローチが進化するにつれて、直接投資や触媒的投資から期待されるインパクトの測定と報告は精緻化しています。そのため、ミッション達成に向けた進捗状況をより詳細に把握できる指標を採用することになりました。

インパクトの測定方法は、確固としたものでなければなりません。廃棄プラスチック回収量やリサイクル量、関連データはもちろん重要ですが、AEPWの活動やインパクトを幅広く把握することが必要です。この知見に基づき、本レポートで使用された指標は、過去のレポートのものよりも包括的になっています。私たちは外部パートナーと協力して、インパクトに関するデータの収集や検証に用いるプロセスの保証を開始し、今後も継続する予定です。AEPWの取り組みが成熟するにつれて指標の幅を広げ、外部機関による保証を取得して信頼性を高めていきます。

ソリューションアクセラレーターファンド

2019年以降の累計インパクト

38,729トン

の管理されていない廃棄プラスチックが、AEPWの設立以来削減されました。初期のプロジェクトが実を結び、AEPWのインパクトは加速度的に大きくなっています。2021年には2,440トン、2022年には35,789トンの管理されていない廃棄プラスチックが削減されました。

39,113トン

の廃棄プラスチックら、主にリサイクルを通じて価値を生み出しました。

156,845トン/年

のリサイクル能力が、現在資金を提供しているプロジェクトが完了すると追加される見込みです。

657組織

に環境から廃棄プラスチックをなくすための積極的な支援を行っています。

189,177人

の参加者が教育プログラムに参加しました。

2億9,700万米ドル

の収入を得ました。

2億2,500万米ドル

がプロジェクトとミッション関連の活動に配分され、2022年末までに57%が支出されます。

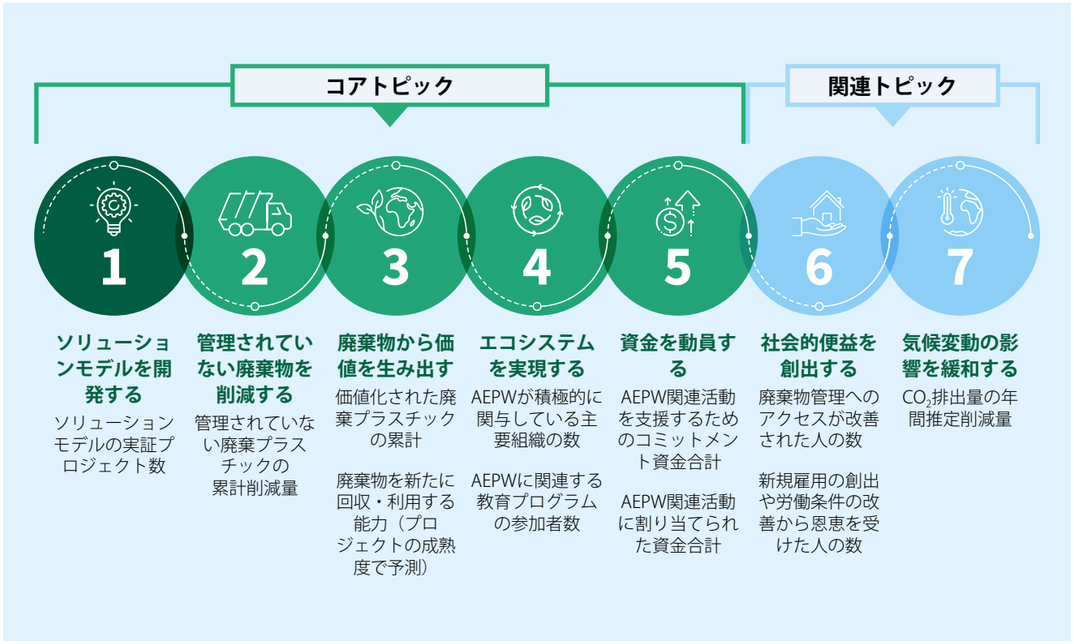
4,355,638人

が新規または改善され廃棄物管理ービスを利用できるようになりました。

4,229人

の新規雇用の創出や労働条件の改善から恩恵を受けた人の数。

インパクト



インパクトを評価する

AEPWのインパクトと進捗を測定し、実証するために、5つのコアトピックと2つの関連トピックを定義しました。各トピックエリアは具体的な指標によって裏付けられています。

コアトピック

コアトピックとは、環境流出への対応や循環性への移行支援など、AEPWのミッションに直接関連する分野です。

関連トピック

関連トピックとは、AEPWの関心の中心にはなくても、ミッションを果たす上で重要な分野です。

ソリューションベースのアプローチ

環境から廃棄プラスチックをなくし、循環型経済を構築することは、巨大な問題ですが、乗り越えられない問題ではありません。AEPWのインパクトが急速に高まっていることを誇りに思っていますが、私たちの目標は廃棄プラスチックの問題をすべて自力で解決することではありません。民間部門と公的部門の両方の行動を促す必要があるのです。私たちの取り組みが、「ソリューション・モデル」というコンセプトに基づいているのはそのためです。

AEPWは、有望な新しい技術、新しいビジネスモデル、新しい資金調達のアイデアなどを検証し、廃棄プラスチックの問題に取り組むプロジェクトに資金を提供しています。プロジェクトがうまくいき、ソリューション・モデルの実証に成功した場合は、私たちはその成功をできるだけ幅広く共有し、私たちの取り組みをベースにして他の人々が水平展開できるようにしたいと考えています。

これを行うために、テストするアイデアだけでなく、現地の社会経済や政策、廃棄物の状況など、プロジェクトのあらゆる側面を記録しています。すべてのプロジェクトから得た知見を記録することにも注意を払っています。

インパクト指標を活用して、AEPWはプロジェクトのあらゆる側面を厳密に測定しており、データによってプロジェクトの実行可能性と有効性を確認することができます。究極的には、2つの理念が私たちの成功の原動力となっています。一つは実証可能なソリューションモデルの数。もう一つは、そのような実証済みのモデルを同上するよう他の人々に働きかける力です。

AEPWは、どのソリューションモデルをテストで実証するかを決める明確な選定基準を持っています。第一に、循環型経済への移行を妨げるギャップや障害に取り組むものでなければなりません。開発途上国の中には、自治体のごみ収集システムが存在しないところもあります。先進国では、自治体のごみ分別システムを改善し、廃棄物の流れを明らかにする必要があるでしょう。その他に、高密度ポリエチレン（HDPE）製洗剤ボトルの再利用モデルや、マルチラミネートフィルムのリサイクル技術の開発、建設現場で使用される耐久性のあるプラスチックの回収・処理方法の開発など、特定の用途におけるギャップも考えられます。

どの場合でも、ソリューションモデルの特徴にはさまざまな差異があります。一例を挙げると、米国中西部で機能するモデルはケニアやインドネシアに適用できない可能性があります。ですから私たちは、ソリューションモデルを定義するとき、コンテキストに注目するようにしています。低所得の農村部と高所得の都市部では、PETボトルを集めるソリューションモデルは必然的に異なるからです。

さまざまな地域ごとにギャップが存在し、それらを解決するために多様なモデルを開発し、実証する必要があります。私たちは、モデルをスケールアップした場合の廃棄プラスチックの処理量や、そのモデルに優れたアイデアがあり有効性を検証する価値があるなど、さまざまな要因を考慮して優先順位を付けています。その他にも、そのソリューションが環境に優しいか、社会的に責任ある方法か、技術的に可能か、経済的に実行可能か、再現性が高いかなど、多くのフィルターをかけて選別しています。 一つのソリューションモデルが、特定のプラスチック用途のエンドツーエンドソリューションになる場合もあれば、より大きなソリューションの一部になる場合もあります。

今後の方向性

AEPWは今後も活動を続け、廃棄物管理問題のより多くの側面に対応するソリューションモデルのレポジトリを構築したいと考えています。プラスチック問題に特効薬はありません。さまざまなアイデアが必要なのです。私たちのレポジトリは機能するソリューションを実証し、共有するための重要なツールとなるでしょう。

AEPWの設立以来、累計38,729トンの管理されていないプラスチック廃棄物が削減された。

インパクト

インパクトを測定する：基本原理

AEPWは、私たちが得た知見を誰もが理解し、その理解に基づいて5つの基本原理にコミットできるようにしたいと考えています。

正確性
正確で、十分に詳細で、検証可能な情報を報告すること。

比較可能性
一貫性を持って情報を選択、編集、報告し、インパクトの経時的な変化を分析可能にすること。

透明性
ステークホルダーが合理的な確信をもって意思決定できるよう、十分かつ適切な情報を開示すること。

検証可能性
収集、記録、編集、分析した情報の質を検証できること。

追加性
AEPWの成果および/またはAEPWによって加速され、最初のベースライン（何も対策も取らない「business-as-usual」シナリオ）に重要な利益をもたらすインパクトだけを主張すること。

保証ステートメント

DNV ビジネス・アシュアランス・サービス UK LTD

AEPWは、DNV ビジネス・アシュアランス・サービス UK Ltd（DNV）に依頼して、AEPWの報告期間（2022年1月1日から2022年12月31日）のコアトピックおよび関連トピック、ならびにAEPWの設立以来の累計インパクトについて、AEPWのインパクト指標ハンドブックに記載されている報告基準に準拠して、第三者アセスメントを実施しました。DNVは、AEPWの「コア」トピックと「関連」トピックの状況を評価し、一定の保証を得るために主要業績評価指標（KPI）を用い、報告書を作成しています。

第三者アセスメントの実施に際して、DNVは以下の活動を行いました：

- AEPWのディレクター、上級管理職、プロジェクトマネージャーとリモート面談を行い、コアトピック、関連トピック、KPIを作成・集計・報告するための主要なプロセス、システム、統制について理解を深めた。
- データがどの程度適切に測定・記録・照合・報告されているか確認するために、コアトピック、関連トピック、KPIについて、限定的な実証テストを選択的に実施した。
- AEPWのディレクター向けに機密の保証準備評価レポートを作成して、2023年のプログレスレポートについて正式な限定的保証を得る前に、AEPWが検討し、取り組むべき事項に関する主な所見と提言の概要を報告した。

DNVは、AEPWの定義したインパクト指標の方法論とガバナンスが、AEPWが現場のパートナーとの協働を通じてインパクト報告アプローチを継続的に展開する中で、トップレベルの指標について限定的な独立保証を得るための有効な基盤を提供するものであると判断しました。

この独立評価報告書は、2022年におけるAEPWのサステナビリティ・パフォーマンスと、本プログレスレポートで開示された情報の質について見解を提供するものではありません。またDNVは、2022年に、AEPWの報告に対する評価の独立性を損なう可能性のある他のコミットメントに一切関与していません。

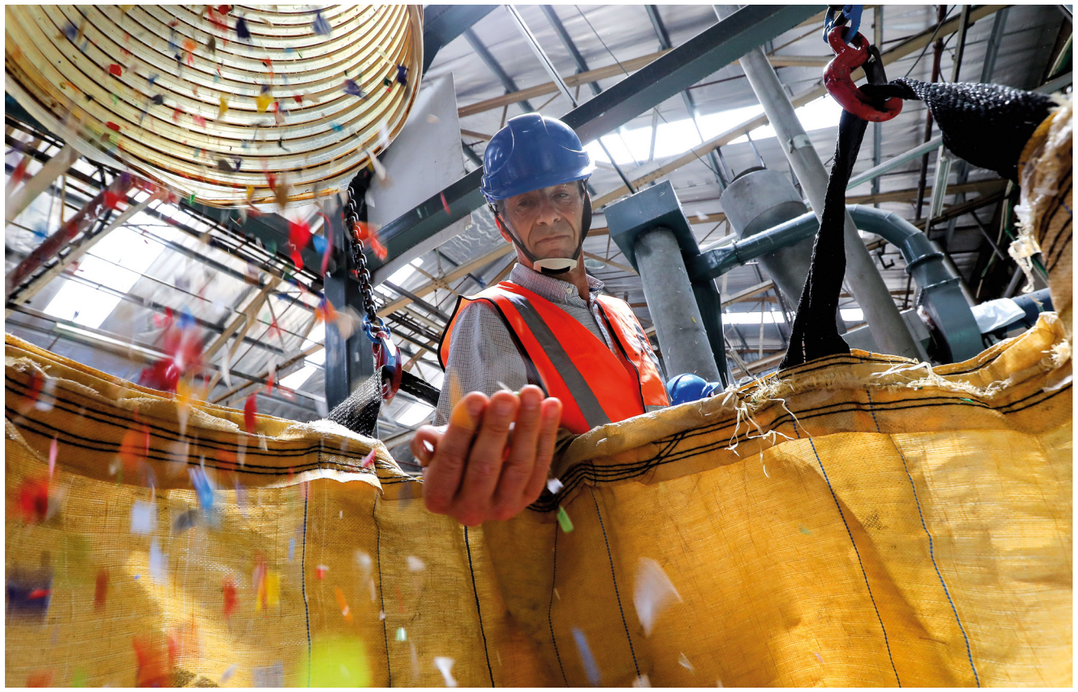
インパクト指標の開発

AEPWの目標は、世界的に重要な2つの問題である、環境への廃棄プラスチックの流出防止とプラスチック循環経済への移行支援に取り組むために、資金を動員し、その資金を使って、スケールアップと再現が可能な新しいアイデアをテストで実証することです。規模を拡大して再現するには、環境に優しく、技術的に可能で、社会的に責任ある方法で、経済的に再現でき、理想を言えば投資可能なソリューションであることが必要です。

AEPWはミッション達成の途上にあり、進捗の測定は簡単ではありません。ソリューションを開発し、実証するためには、個々のプロジェクトを育成すると同時に、今後再現するための条件をどのように整えるか検討する必要があります。加えて、プロジェクトに取り組み始めてから意味のあるインパクトを生み出すまで、通常3年から5年という長い期間が必要であり、国レベルのインパクトを実証する再現実験にはさらに時間がかかることがあります。AEPWの進捗を反映したものにするため、将来の成果につながる現在の活動を測定する「インプット」指標と、達成された実際の成果を測定する「アウトプット」指標を照らし合わせ、比較することにしました。

インパクトレポートの枠組みを作成するにあたり、以下の項目を優先しました：

- 独立して保証される、現在および将来予想されるインパクトについて透明性のある報告を行うこと
- さまざまなステークホルダーとのコミュニケーションを支援すること
- 信頼を築き、できるだけ一般的な報告原則と報告基準を採用すること



2019年のAEPWの設立以来、累計39,113トンの廃棄プラスチックが削減された。

パートナーであるEY、ERM、DNVと協力して、学術界、報告の枠組み、同様の取り組みを行う組織で使用されている指標を調査し、関連性の高い約150の指標を選び出しました。各指標は4つの基準に基づいて評価されました：

- つまたは複数のミッションに関わるトピックと関連性があること
- 指標の性質
- 測定しやすさ
- 外部保証の範囲に指標を含める能力

業界の専門家に相談し、さまざまな報告基準を検討した結果、7つのトピックと11の最重要指標からなる報告書の枠組みが策定されました。これらは、私たちのインパクトの全体像を把握するために収集が必要な50以上のデータを集約したものです。

AEPWは各指標について詳細に定義し、文書化しました。そこには、指標の詳細な説明、測定単位と測定期間、データ収集・記録保持・検証の責任、スコープの包含・除外の特定、計算方法、必要とされるインテグリティの基準などが含まれます。

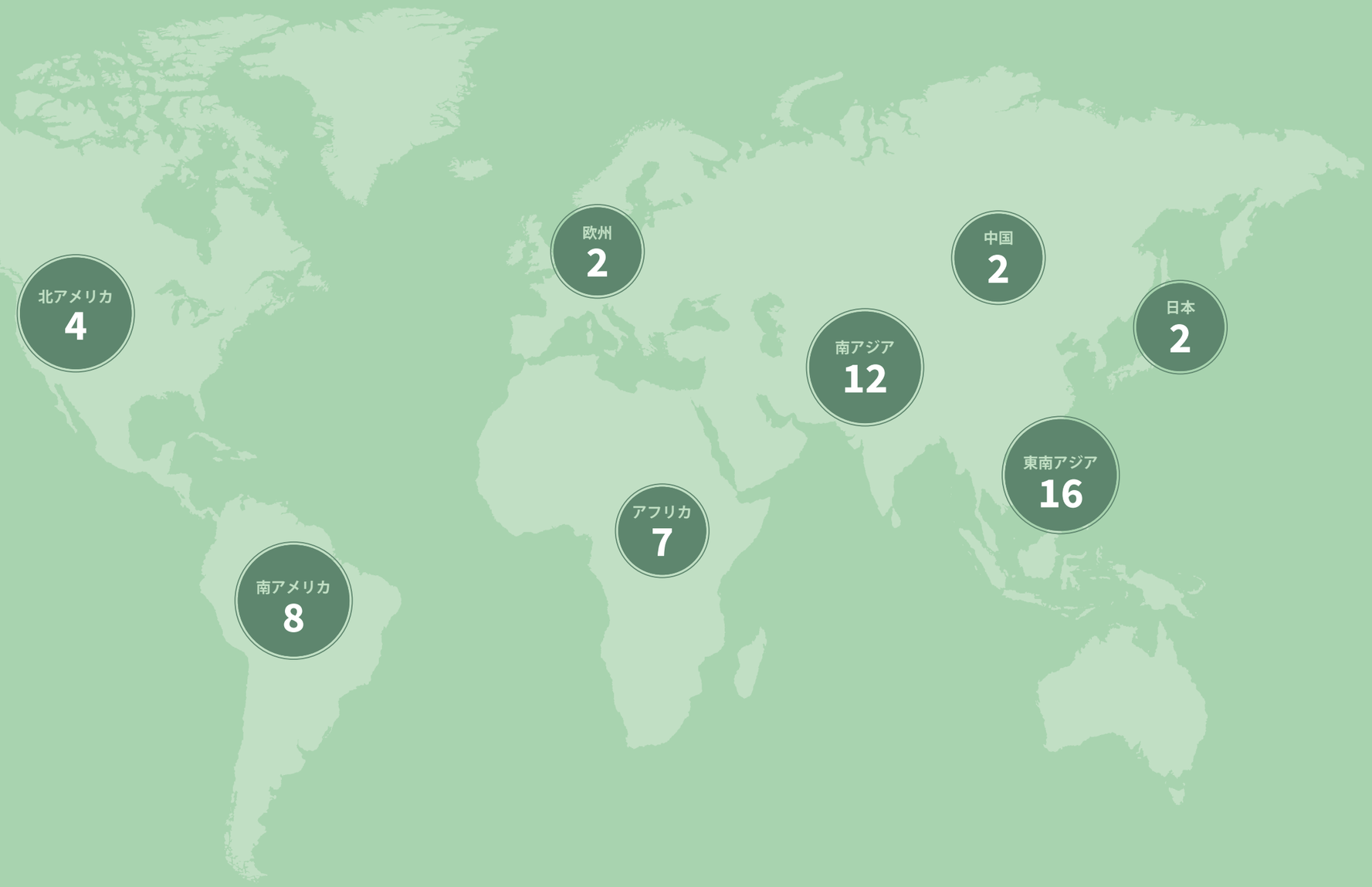
ESG報告に必要なデータインテグリティの確保に向けた取り組みは数年にわたり、端緒についたばかりです。私たちは、ツールの開発、適切なトレーニング、すべてのステークホルダーへの周知を確実に行うとともに、知見を深め、指標を進化させて、これらの枠組み、データ定義、エビデンスの更なる改善に努めます。

実証実験ソリューション

AEPWは、持続可能なソリューションを生み出すグローバルラボ (実験室) の役割を果たしています。私たちは、環境中の廃棄プラスチックをなくし、プラスチック循環経済への移行を加速させるために、地域固有のニーズと課題に対応したソリューションの開発を支援しています。2022年末現在、AEPWは8つの地域で53件のプロジェクトに資金を提供しています。

AEPWは通常、初期段階にあるプロジェクトの資本支出に資金を提供します。ただし、経済的リターンよりもインパクトリターンを期待しており、成長段階でスケールアップが見込まれるプロジェクトの場合は、運転資金を提供することもあります。一部の国では、環境に流出したプラスチックや埋立地に運ばれた廃棄プラスチックを直接転用する取り組みを行っています。また、私たちは、地方政府や金融機関と連携しながら、地域コミュニティの廃棄物管理能力を向上させ、循環型経済を推進する統合的廃棄物管理システムの構築を支援しています。その他には、インテリジェントな廃棄物分別システムへの投資、多種多様なプラスチックをリサイクルするための新たなソリューション開発の奨励、再利用可能な包装材への移行に重点を置いています。

以下のページで取り上げるプロジェクトは、ソリューション・アクセラレーター・ファンドを通じて、デザイン（設計）、収集、分別、リサイクルの分野、および詰め替え・再利用などのより循環的なモデルの導入に関するもので、AEPWが2022年に実施し、進展が見られたプロジェクトの一部です。



アフリカ

ダンドラのごみの山に挑む

場所
ナイロビ（ケニア）

プロジェクトパートナー
TAKA TAKA SOLUTIONS

達成事項

500
人の非正規労働者の労働条件を改善

1,000
トン以上の廃棄プラスチックを転用

140,000
人が新規または改善され廃棄物管理サービスを利用できるようになった

国連持続可能な開発目標

ケニアで進む軟質廃棄プラスチックのリサイクル

ナイロビ・ダンドラ地区の埋立地近くにおいて、リサイクルが困難な軟質廃棄プラスチックに新たな命を吹き込む処理工場の建設が始まりました。

2022年に半年間のコラボレーションを成功させた後、Taka TakaとAEPWはこれまで埋立地に放置されていた軟質廃棄プラスチックの持続可能なリサイクルに向けて、意欲的なプロジェクトを立ち上げました。

ダンドラは首都ナイロビの郊外にあるアフリカ最大級のごみ集積場で、面積は30ヘクタールに及びます。20年以上前に最大処理能力に達したにもかかわらず、今も毎日2,000トンの分別されていないごみが運ばれてきます。その中にはトラック30台分の軟質廃棄プラスチックが含まれています。

ごみを拾って生計を立てるウェイスト・ピッカーは社会経済的に下層の人々で、家庭ごみや事業系ごみの山の中からお金になるものを回収し、現金収入を得ています。売れない軟質廃棄プラスチックには見向きもしません。

新しい施設によって処理能力が向上することで、軟質廃棄プラスチックを分別し、生産サイクルに戻すことができるだけでなく、ナイロビで最も貧しい人々の安全を守り、所得を増やすことができるとTaka Takaは考えています。

2022年、AEPWの支援を受けて、Taka Takaは近隣の非正規労働者が集めた軟質廃棄プラスチックを買い戻し、分別する作業場を開設しました。 その結果、140,000人の住民が新規または改善された廃棄物管理サービスを利用できるようになり、500人の非正規労働者が廃棄プラスチックの見分け方や分別方法についての研修を受けました。ダンドラのウェイスト・ピッカーが直面している困難な状況を考えれば、この作業場で働く労働者は防護服や安全靴を支給され、定期的に健康診断を受けられます。

また、リサイクル可能なごみを適正価格で買い上げることで、そうしたごみを拾うインセンティブが生まれ、労働者の所得も増えます。

半年もたたないうちに、Taka Takaは1,000トンの軟質廃棄プラスチックを埋立地から回収するという目標を達成しました。梱包された廃棄プラスチックはTaka Takaの施設に運び込まれ、洗浄後にペレット化、バージンプラスチックの代替品として現地のプラスチック生産システムに再投入されます。

初期のコラボレーションが成功したことで、Taka TakaとAEPWは5年間のパートナーシップ契約を締結し、既存施設の隣に新しい施設を建設することになりました。新施設は2023年第4四半期に稼働する予定で、AEPWの資金で最新の処理設備を導入し、年間16,000トンの軟質廃棄プラスチックを処理する計画です。プロジェクトの規模を考えると、新施設の稼働により、200人以上の雇用が創出されると見込まれます。

本プロジェクトによって、ナイロビにおけるTaka Takaの既存事業も拡大しています。Taka Takaという会社名はスワヒリ語で「ごみ」を意味し、ナイロビで10年以上にわたり、さまざまな廃棄物の回収、分別、処理を行ってきました。Taka Takaの企業カラーである明るいオレンジ色のトラックは、世界有数の汚染都市と言われるナイロビにてよく見かけられます。ごみの排出量は増え、人と環境に対するリスクは高まる一方で、Taka Takaは収集したごみの約95%をリサイクルまたはコンポスト化できるようになりました。

軟質廃棄プラスチックを処理し、資源として生産システムに再投入することに着目したことで、ナイロビは循環型都市に一歩近づくことができたのです。

1

2

1. Taka Taka Solutionのごみ分別場。
2. 500人の非正規労働者が廃棄プラスチックの種類を見分け、分別する仕事を覚えることができた。

アフリカ

より包括的なシステムを目指すヨハネスブルグ

場所
南アフリカ（ヨハネスブルグ）

プロジェクトパートナー
AFRICAN RECLAIMERS ORGANISATION

達成事項

600
トンの廃棄プラスチックを転用

4,000
人以上が新規または改善された廃棄物管理サービスを利用できるようになった

国連持続可能な開発目標

回収者とともにギャップを埋める

南アフリカでは何年もの間、非正規のウェイスト・ピッカー（回収者 (reclaimer) とも言う）が何トンものごみを路上やごみ処理場で拾い、廃棄物管理に大きな役割を果たしてきました。彼らは過酷で危険な環境で長時間働いているにもかかわらず、生計を立てるのがやっとで、社会の片隅に追いやられ目に見えない存在でした。

ヨハネスブルグで設立されたNPOのAfrican Reclaimers Organisation (ARO) は、こうした状況を変えようとしています。 AROは6,000人の回収者を一つの組織にまとめ、発言する機会を与えるとともに、収集したごみを分別し、資源ごみを現地のリサイクル市場に販売するための施設を建設しました。これにより、社会に必要な仕事をしている回収者は、公正な報酬と評価を得られるようになると期待されています。AROのパートナーも、回収者を約束を守り、信頼できる労働者として認めてもらい、正規の廃棄物部門と一緒に働けるようサポートを行っています。

2022年10月、AEPWはこのような取り組みに重点を置きつつ、回収者が効率的かつ安全に働くための道具類を提供しました。このような活動は、回収者たちがごみ埋立場や混雑した道路上で、基本的な生活必需品を手に入れる余裕もなく働いていることを認識したものです。

AEPWとの9カ月にわたるコラボレーションの一環として、回収者はムプマランガ州のメイフラワーとヨハネスブルグ市の一部で廃棄プラスチックを回収し、運搬しやすくまとめてからトラックに積み込みました。その結果、4,000人ほどの住民が新規または改善された廃棄物管理サービスを利用できるようになりました。

廃棄プラスチックは高速道路の高架下にある仮集積場にいったん持ち込まれ、新設された分別センターに移送されます。分別センターでは安全に働けて、一度に大量のごみを分別し、販売用にまとめることができます。その場で廃棄プラスチックを移動式ベイラーで圧縮するので、運搬費用を安く抑えることができます。

分別センターが稼働したことで、非正規労働者の労働環境と暮らしが改善されただけでなく、彼らが信頼できる労働者であり、廃棄物管理の有能なパートナーであることが証明された形です。こうした認識は、分別センターでの研修や継続的な改善プログラムを通じて強化されています。

1

2023年2月現在、本プロジェクトでは、環境中のごみや埋立地に運び込まれたごみから約600トンの廃棄プラスチックを資源に転用しました。この数値にはAROが他の団体と協力して転用したものも含まれています。

非正規のごみ回収者を南アフリカの廃棄物管理エコシステムの重要な担い手の一端として認識することから始めたAROの活動は、都市全域や場合によっては国全体にスケールアップして適用できるモデルです。

2

1. 2018年に設立されたAROは非正規ごみ回収者を一つの組織にまとめようとしている。
2. AEPWの資金で建設されたAROの分別センターは、回収者に効率的で安全に働ける場所を提供している。

アフリカ

INKWAZI ISU：「南アフリカの遊び場」をきれいにする

場所
ダーバン（南アフリカ）

プロジェクトパートナー
南アフリカ保健医療財団

達成事項

150
人以上の雇用を創出

4,000
トンの廃棄プラスチックを転用

3,500
トン以上の廃棄プラスチックを価値化

33,000
人以上が新規または改善された廃棄物管理サービスを利用できるようになった

国連持続可能な開発目標

Inkwazi Isu（ウミワシ）プロジェクト

南アフリカのダーバン市は、行政、産業界、市民社会が連携して、都市のプラスチック汚染問題の解決を目指すユニークなプロジェクトに取り組んでいます。

不均等な分配かつ限られたリソースによって廃棄物の管理が妨げられているこの国では、ごみの管理が十分ではありません。南アフリカ保健医療財団（SAHF）とのパートナーシップのもとで、公的セクターと民間セクターが力を合わせて、アマンジムトティの海岸とイジンボコドゥウェニ川流域の廃棄プラスチックを資源に転用する活動を行っています。

まず最初に、ダーバン周辺に新たに10カ所の資源回収施設（MRF）を整備し、上記二つのエリアのコミュニティから回収した廃棄プラスチックの分別を開始する計画です。これは、AEPWの会員企業であるSasolがアップグレード資金を提供し、自治体に引き渡した2つのMRFの運営が軌道に乗っているからこそ実現したプロジェクトです。

永遠に続くかのような金色の砂浜が美しい海岸線の街はリラックスした雰囲気に包まれ、「南アフリカの遊び場」と呼ばれていましたが、過去3年間に二度にわたる洪水の被害を受け、何トンもの廃棄プラスチックが沿岸域に流出しました。度重なる災害への対応がコラボレーションのきっかけとなり、2022年6月にInkwazi Isuプロジェクトが立ち上がりました。

Inkwazi Isuとは、流域清掃後に戻ってくるアフリカウミワシにちなんでいます。4年間のプロジェクトでは、被災地域の清掃活動そのものではなく、ごみの分別施設の強化、地域コミュニティへの啓発活動、新しいソリューションを開発する起業家のためのイノベーションハブの構築に資金を提供します。

2023年末までに、AEPWの資金で5つのMRFを整備し、都市のごみ分別能力を向上させ、最終的にはリサイクルを目指します。これにより、使用済みプラスチックを毎年12,000トン追加で処理できるようになります。残りの5つのMRFは来年中に整備する予定です。これらのMRFは、ごみ埋立地、ごみ捨て場、一般家庭、学校から出るごみを処理し、ごみは自治体の廃棄物労働者が収集するか、非正規の回収者から購入します。

何千人もの地域ボランティアが、川やビーチの定期的な清掃活動に参加し、何トンものごみを拾って、自然環境の回復に協力しています。Inkwazi Isuのごみアンバサダーが、廃棄プラスチックの分別や流出防止を呼びかける啓発活動を行い、プロジェクトをサポートしています。

これは、アンバサダーが地域コミュニティで行っている活動を基盤としています。50カ所の学校で、廃棄プラスチックの見分け方と分別方法に関する教育プログラムを実施しており、生徒たちに自宅から出る廃棄プラスチックを回収するよう働きかけています。こうしたごみ収集プログラムのおかげで、現在では毎月100トン以上の廃棄プラスチックをリサイクルできるようになりました。非正規セクターが回収で大きな役割を果たす一方で、処理施設の老朽化や施設自体がないために、廃棄プラスチックのリサイクルは14%しか進んでいません。このような状況では、協調的で一貫したアプローチが求められます。

2025年12月までに、Inkwazi Isuは20,000トンの廃棄プラスチックを収集・分別し、ごみ回収者と分別者にポジティブな社会的インパクトをもたらすことを目指しています。この目標は順調に達成できそうです。2022年7月から12月の間に、当初の予想であった2,500トンを超え、4,000トン以上の廃棄プラスチックが収集・分別され、このうち3,500トンが価値化されました。プロジェクト開始以降、33,000人を支援し、150人の雇用が創出されています。最終的な目標は、各MRFが自立的に運営され、分別されたプラスチックやその他のリサイクル可能なごみを現地のリサイクル業者に販売できるようになることです。

Inkwazi Isuプロジェクトは、南アフリカで3番目に人口の多いダーバンで実施されています。そこでのプロジェクトが成功するなら、他の沿岸地域にも水平展開できる可能性があります。他の場所でも、廃棄プラスチックの自然環境への流出を食い止め、埋立地の廃棄プラスチックを資源に転用し、バリューチェーン下流における処理技術の開発を奨励して、雇用を創出し、国全体の環境を改善することができるでしょう。

1

2

1. 2022年7月から12月の間に、当初の予想であった2,500トンを超え、4,000トン以上の廃棄プラスチックが収集・分別された。
2. ごみ収集プログラムのおかげで、毎月100トン以上の廃棄プラスチックをリサイクルできるようになった。

南アメリカ

都市とともに都市のために、リサイクルを再考する

場所
オラバリア（アルゼンチン）

プロジェクトパートナー
DELTERRA

達成事項

120,000
人が新規または改善された廃棄物処理サービスを利用できるようになった

50%
の廃棄物が参加地区で分別された

国連持続可能な開発目標

GIRO Argentina

アルゼンチンのオラバリア市にある5つの地区では、分別されていないごみ袋を見かけることは少なくなりました。地区の住民や商店・オフィスの大半は、指定されたごみ収集日にごみを出す前に分別しています。

パイロットプログラムの成功とAEPW会員企業のAmcorの支援を受けて、環境NPO Delterraは GIRO Argentinaモデルを、2カ月ごとに10,000～15,000世帯のペースで、オラバリアの120,000人の住民に水平展開しています。オラバリアは現在、ラテンアメリカで最もリサイクル率が高い都市の一つになっています。

首都ブエノスアイレスから車で5時間の場所にあるオラバリアは、住民たちが互いに挨拶したり、立ち止まっておしゃべりするような、小さな街の雰囲気のある中規模都市です。同じ理由から、保守的で、変化に抵抗することもあります。

Delterraにとっての課題は、分別しないまま毎日ごみを出すことに慣れている住民に、ごみを分別し自宅で保管してもらうにはどうすればよいか、ということでした。この課題を解決することが、堆肥化可能なごみとリサイクル可能なごみを週1回、混合ごみを週2回、3種類に分けて道路脇収集するシステムを導入する上で重要なポイントになるのです。

消費財廃棄物の80%はリサイクルや堆肥化が可能ですが、きちんと分別されていないため、リサイクル企業に利用されないまま廃棄されています。このプロジェクトから得られる知見は、リサイクルの基本的な課題に取り組む際に役に立つでしょう。地域コミュニティへの働きかけが始まったのは2019年です。その当時、公共エリアで拠点回収する既存事業に参加していたのは住民のわずか1%に過ぎませんでした。

GIRO Argentinaのチームは戸別調査とオンラインアンケートを行って、住民のニーズとモチベーションの理解に努めました。次に、5つのパイロット事業を実施し、コミュニティ教育、ごみの収集、分別、ソーシャルインクルージョンに関するさまざまな知見の獲得、精緻化、評価を事業ごとに繰り返しました。住民の行動変容を促す各パイロット事業は、初期のプログラムで得た知見に基づいた内容となっており、新たなごみ収集サービスを導入するための下地をつくります。

市民と行政機関との間の共通のコミットメントを持つことを重要視し、近代的な都市であることへの誇り、リサイクルに関して寛容であることが、この事業の支えとなり、結果として大きな変化をもたらしました。

親しみやすく使いやすい情報タッチポイントを設置し、住民の自信を高め、コミットメントを強化することに役立てました。これには、住民の質問に素早く回答するWhatsAppのチャットボットも一役買っています。

GIROモデルは、各家庭でごみを分別し、指定された収集日に道路脇に出すのが特徴です。それを自治体が収集し、処理施設まで運搬します。リサイクル可能なものはGIROの分別センターに持ち込まれます。センターでは、リサイクル可能なごみを段ボール、ガラス、10種類以上のプラスチックにさらに分別します。分別されたリサイクル可能なごみはリサイクル企業に売却し、堆肥化可能な有機廃棄物は堆肥化施設に運んで処理します。混合ごみは既存の埋立地に運搬します。

複数のパイロット事業を実施したことで、GIRO Argentinaは数カ月のうちに参加地区のごみ分別率を1%から約50%に向上させました。プロジェクトのステークホルダーが共創したローカルなソリューションは、地域住民の行動を変えることを実証したのです。

都市全体に展開する準備を整えるため、実証試験用の小規模なパイロットプラントに代えて、商業規模の分別センターと堆肥化プラントを建設し、2023年5月に運用を開始しました。リサイクルを支援することで、オラバリア市の循環性が高まっただけでなく、かつてはごみだったものが資源となり、地元のごみ埋立地でごみを拾っていた貧困層のウェイスト・ピッカーに対して正規雇用を提供することができました。

1

2

Delterraの試算では、住民のリサイクル意識や行動を変えることは、ごみ選別機を導入するよりもコストが抑えられます。地域住民による分別では、リサイクル可能なごみ1トンあたり毎年50～150米ドルのコストがかかりますが、自動選別システムでは200～700米ドルです。また、プロジェクトにかかる費用は、リサイクル可能なごみの売却益、埋立て費用の削減、プラスチッククレジットやカーボンクレジットによる収益のおかげで数年で回収できる見込みです。

GIROプロジェクトはブエノスアイレスのバリオ・ムヒカ地区で2019年に実施した実証実験に基づいており、分別センターと堆肥化施設がフル稼働し、残りの市域にごみ収集サービスを展開した後は、その事業を自治体に移管する予定です。

1. 廃棄物の流れをスムーズにするために、GIROの作業場で収集された家庭ごみを梱包・保管する廃棄物作業員。
2. GIRO Argentinaのチームは地域住民の参加率とごみの分別率を上げるために、戸別調査を行った。

南アメリカ

ブラジルの都市に持続可能な未来を

場所
複数の都市（ブラジル）

プロジェクトパートナー
INSTITUTO RECICLEIROS

達成事項

14
の分別センターを運営

84,000
人以上が新規または改善された廃棄物管理サービスを利用できるようになった

国連持続可能な開発目標

Cidades

2019年から、RecicleirosはAEPWとパートナーシップを結び、ブラジルの小中規模都市に14のごみ分別センターを設置して、これらの自治体にリサイクルシステムを初めて導入しました。

ブラジルのセアラー州で始まったパイロットプロジェクトは、実証済みの廃棄物管理モデルへと進化しました。環境NPOのRecicleirosは、2027年までにブラジル全土の60都市にプロジェクトを拡大し、3,000の新規雇用を創出して、年間30,000トン以上の廃棄プラスチックをリサイクルすることを目指しています。

現在までに、84,000人の住民が新たにまたは改善された廃棄物管理サービスを利用できるようになりました。

すべては登録から始まります。持続可能な廃棄物管理サービスの設置に意欲的な都市は、RecicleirosのCidadesプログラムに申請し、適格性審査を受けることになります。審査は厳格であり、都市のインフラ、リソース、能力だけでなく、世帯レベルで行動変容を促すことを通じて、プロジェクトを遂行するコミットメントについても考慮されます。都市の適格性が確認されると、Recicleirosは長期的な持続可能性を確保するための正式な協同組合との提携を含む、分別センターの設置と管理に必要な知識や資金をサポートします。

分別センターはプラスチックバリューチェーンのさまざまなプレーヤーを結びつける重要な結節点として機能し、包括的でインパクトのある、経済的に実行可能なシステムへの道筋を示します。また、廃棄物回収に携わる労働者（catadores）の生活を向上させることができる直接雇用と収入の機会を提供します。さらに、回収物の需要と供給のギャップを解消し、現地企業や国際的ブランド企業からの需要が高いリサイクル素材を市場に供給するための支援も行います。

現在新たに、このプロジェクトモデルの展開がブラジルの6都市において進行中で、第一段階が終わったところです。その一方で、第二段階を開始するため、次の候補20都市の調査を開始しました。

Cidadesプロジェクトのインパクトは広範囲に及び、よりクリーンな都市にするという枠を超えています。今後数年間にわたって、Recicleirosは行政、ごみ回収業者、企業、市民の連携を引き続き強化し、ごみのリサイクル率を上げて、埋立地に持ち込まれる家庭ごみを減らし、リサイクル企業に売却できる資源ごみの量を増やすことを目指します。

ブラジルでは、規制の変更に伴い、消費財廃棄物のリサイクル素材（ポストコンシューマー材料）への需要が大幅に増加すると見込まれています。ブラジル連邦政府が2023年2月に2つの法令を通過させたことで、Recicleirosの目標はさらに前進し、分別センターで働く労働者にとってもメリットが生まれるでしょう。最初の省令では、連邦レベルでリバースロジスティクスクレジットを規定し、新規インフラへの投資を増加させることに焦点を当てる一方で、協同組合やウェイスト・ピッカーを優先することを定めています。第2の省令では、2020年に機能を停止した、ウェイスト・ピッカーの社会経済的インクルージョンを目指す学際的委員会の「Pró-Catador」プログラムを復活させています。

新しい規制は、環境に配慮しながら、ブラジル社会で最も弱い立場にある人々の生活を改善するCidadesプロジェクトが、環境的・社会的に大きなインパクトをもたらしていることを示しています。ウェイスト・ピッカーを議論の前面に押し出すことで、社会経済の発展に向けた取り組みは、地域レベルでもそれ以上でも、可能性がさらに広がるのです。

1

2

3

1. Recicleirosが運営する分別センターは、バリューチェーンのさまざまなプレーヤーを結びつける重要な結節点として機能している。
2. Recicleirosの分別センター。
3. Cidadesプロジェクトは、ブラジルの60都市で30,000トン以上の廃棄プラスチックをリサイクルすることを目指している。

北アメリカ

プラスチック資源循環への投資を促進する

場所
ロジャース（米国ミネソタ州）

プロジェクトパートナー
MYPLAS RECYCLING (MN) INC

達成事項

1,490万米ドル

の触媒的投資

国連持続可能な開発目標

ミネソタ・リサイクリングプラント

ミネソタ州ロジャース市の郊外で、循環型社会への移行が始まろうとしています。

米国では現在のところ、使用済みの軟質廃棄プラスチックのパッケージとフィルムは毎年わずか5%しかリサイクルされていません。残りの95%、例えば、使い捨ての買い物袋、通信販売の包装材や梱包材などは、埋立てや焼却処分されるか、場合によっては環境中に流出しています。リサイクル率が低く、バージンプラスチック（再生素材ではないプラスチック）への依存度が極めて高いことから、近年は国の廃棄物管理に対する懸念が高まっています。

南アフリカのリサイクル企業Myplasは、商業や農業で使用され、回収されたプラスチックフィルムを、プラスチック本来の特性が求められる用途に使用することで、現在のシステムを変えようとしています。具体的には、廃棄プラスチックを再生ペレットに加工して食品グレードを包むフィルムや、シュリンクラップ、買い物袋などのフレキシブル包装材の製造に使用します。

AEPWは、Myplasが他の投資家から1,490万米ドルの成長資金を調達するような取引条件で初期段階に譲許的融資を提供しました。資金の一部は、経済に再導入される前に、15,700平方メートルのメ カニカルリサイクルプラントの建設に使用されます。2023年夏に2つの製造ラインが稼働する予定です。

1

1. AEPWは、Myplasが追加の成長資金を調達するのを支援した 。
2. メカニカルリサイクルプラントは2023年夏に2つの製造ラインが稼働する予定。

2

東南アジア

インドネシアで統合的廃棄物管理を大規模に推進する

場所
インドネシア

プロジェクトパートナー
BERSIH INDONESIAチーム、AEPW主導、SYSTEMIQとMOTT MCDONALDが後援

達成事項

3,100
トン以上の廃棄プラスチックを転用

31
の「ホットスポット」を清掃

国連持続可能な開発目標

Bersih Indonesia: Eliminasi Sampah Plastik

Bersih Indonesia: Eliminasi Sampah Plastikは、インドネシアで最も意欲的な廃棄プラスチック削減プロジェクトです。地方自治体、国、専門家、民間セクターの資金、地域コミュニティとの連携を強化して、廃棄物管理の現状を改善することを目指しています。

2040年までに廃棄プラスチックによる汚染をほぼゼロにする国家目標に貢献するため、自立的に運営され、商業的に採算の合うシステムを作ることが目標です。

過去1年半にわたり、AEPWはこのプロジェクトに取り組み、詳細なエンジニアリング設計を行ってきました。資源回収施設、中継施設、車両などのインフラを整備して、地区全体をカバーし、一般家庭が低料金で利用できる回収サービスを導入します。

この廃棄物管理システムで、対象自治体で発生する固形ごみ全てと、廃棄プラスチックを重量ベースで15〜20%回収する予定です。このシステムで回収される予定の大量の資源ごみには、強い関心が集まっています。現地のリサイクル素材のエンドマーケットをサポートし、安定的な供給量を確保するために、多国籍企業やローカル企業が、再商品化された原料の買い手の候補としてプロジェクトに参加しています。これは、インドネシアにおけるプラスチック循環経済が直面する最大の課題の一つに取り組み、自立したビジネスモデルの確立に道を開くものです。

プログラムの鍵となるのは、地方政府公共事業局（BLUD）という公益事業体を設立することです。BLUDは、インドネシア初の廃棄物管理部門である地域の環境省のもとで事業を行い、AEPWの資金サポートを受けながら、廃棄物管理システムの運用と保守に全責任を負います。

プロジェクトを通じて、AEPWは、行政と資金パートナー候補の事業リスクを軽減し、効果が実証されたモデルをインドネシアの他の地域で再現したいと考えています。プロジェクトが完全に稼働すると、最終的には650万人の住民に廃棄物管理サービスを提供し、年間140,000トンの廃棄プラスチックを資源に転換することになります。

このモデルの成功には、地方自治体の主体性、地域コミュニティの協力と参加が不可欠です。プロジェクトの成功の大部分は、一般家庭で有機ごみと非有機ごみに分別し、2つの容器にそれぞれ入れて出してもらうことにかかっているため、準備段階では住民の行動変容を促すことを重視しました。

行動変容キャンペーンの一環として、2022年にマラン県にある31の「ホットスポット」（ごみが滞留しやすい場所）で清掃活動を開始し、非正規のごみ捨て場から13,500トンの管理されていない廃棄物を回収しました。そのうち3,100トンは廃棄プラスチックでした。私たちは地域住民や地元のリーダーを巻き込み、ごみのないコミュニティの未来がどのようなものかイメージできるようにしました。

インドネシアはASEAN最大の経済大国であり、この地域と世界で廃棄プラスチックを削減する競争のキープレイヤーです。AEPWはここでの活動を継続します。公的セクター、民間セクター、市民社会と連携することで、インドネシアだけでなく他の地域でも、プラスチック廃棄物管理に必要な発想の転換が可能になるでしょう。Bersih Indonesia プロジェクトが成功すれば、サービスが十分ではない他のコミュニティで実行できる、経済的に持続可能な廃棄物管理プロジェクトの青写真を提示することができます。

1

2

3

1. マラン県のバパック・サヌシ知事とともにタランガングごみ埋立場を訪れたAEPW。
2. パキサジ地区のケンデルパヤック村など、マラン県の複数のホットスポットで清掃活動を実施。
3. リサイクル企業のGPT Circularと共同で行った清掃活動。回収したごみは分別され、買取業者に売却された。

中国

LOVEREのスマートビンで循環性を提供する

場所
成都、西安（中国）

プロジェクトパートナー
AIFENLEI HONGKONG LIMITED（愛分類有限公司）

達成事項

1,400
個のスマートビンを設置

3,400
トンの廃棄プラスチックを転用

国連持続可能な開発目標

LOVEREとのパートナーシップ

中国のいくつかの都市には、飲料やスナックを販売するのでなく、廃棄プラスチックを回収して循環性を提供するスマートビンが設置されています。スマートビンは成都市や西安市の街中の歩道脇で見かけます。リサイクル可能なごみを投入すると、中国で人気の高いWeChatアプリでクレジットポイントがもらえる仕組みです。

大都市の上海でいくつかの地区にスマートビンを設置したLOVEREのモデルを参考にしており、成都と西安のリサイクル率を15%から35%に倍増させることを目指しています。

2021年11月から、環境テック企業のLOVEREは、AEPWのサポートを受けて約1,400個のスマートビンを両都市に設置しています。他の多くの空き容器回収機と同じように、このスマートビンは操作が簡単で、24時間年中無休です。2021年の当初の計画では、住宅地の中の重要なポイントとなる場所に3,000個のスマートビンを設置する予定でしたが、中国のゼロコロナ政策の影響で2022年からプロジェクトは中断していました。

2023年2月にプロジェクトを再開し、目標達成のために容器の設置を続けています。

スマートビンは人工知能を活用して、リサイクル可能なものとそうでないものを識別します。スマートビン内部に搭載したカメラが目となり、物体認識ソフトとデータをやり取りして、紙類、金属、布類、プラスチックを投入した人にポイントを付与し、リサイクルできないものを投入した人にはポイントを付与しません。内蔵コンパクター（圧縮機）が作動すると内部センサーが信号を発し、スマートビンに80%までごみが貯まると、LOVEREの回収者がごみを回収しに来ます。回収ごみの入った大きな緑色の袋は、市内に複数ある中継施設か、LOVEREの資源回収施設に直接運び込まれます。

次に、リサイクル可能なごみは72ものストリームに選別されて、リサイクル企業に売却されます。成都市に新たに建設された分別センターは昨年末に稼働を開始しました。西安市にも同様のセンターを建設中です。

現在のところ、AEPWが資金提供したスマートビンから3,400 トンの廃棄プラスチックが回収され、分別センターに運び込まれました。

家庭から出るリサイクル可能なごみは、回収されるごみの一部に過ぎません。LOVEREに協力しているオフィスビル、ショッピングモール、その他の企業のごみも回収されます。

本プロジェクトは、さまざまな産業向けにデジタル主導のエコシステムを構築することを目的とした中国の「インターネット・プラス」政策に沿ったものです。「インターネット・プラス」のリサイクル戦略ではテクノロジーを用いて、ごみの回収、収集、分別、流通を統合する新しい収集モデルを構築しています。

LOVEREのソリューションモデルはこの政策と同じ目標を目指しています。成都市と西安市が次の拡大場所に選ばれたのは、人口も観光客も多く、スケールメリットが期待できることと、持続可能な実践のためのコミュニティ教育プログラムを通じて地域住民に働きかけ、リサイクルへの関心を高めているからです。

中国国内と近隣諸国で、再生可能な材料を使用する顧客のネットワークは拡大を続けており、さらに多くのスマートビンが両都市に設置される予定です。LOVEREは収集した資源ごみを付加価値の高い製品にするための提携も模索しており、循環型経済を実現するだけでなく、リサイクルされた製品を「新しいファッション」にしたいと考えています。

1

2

1. LOVEREのスマートビンは使いやすく、人工知能を活用している。
2. LOVEREの資源回収施設で、リサイクル可能なごみは72のストリームに選別される。

南アジア

チェンジメーカー：変化は教室からコミュニティへ

場所
コルカタとシュンドルボン（インド、西ベンガル州）

プロジェクトパートナー
SOCEO gGmbH

達成事項

69
カ所の学校が登録

45,000
人以上の生徒が参加

300,000
人以上が参加、生徒の働きかけで

国連持続可能な開発目標

チェンジメーカー：廃棄プラスチックに取り組む若い世代

西ベンガル州のコルカタとシュンドルボンの市街地に新しい世代のエコ戦士が誕生し、責任あるプラスチック廃棄物管理を開始して、未来を手中に収めようとしています。

11歳から18歳の45,000人以上の生徒がSOCEOの実施した2年間のパイロットプログラムに参加し、廃棄プラスチックによる汚染の規模と、問題に取り組む上で自分たちが果たせる役割について学びました。生徒たちは、同級生、家族、コミュニティの住民など300,000人以上の人々にメッセージを持ち帰り、自分たちの地域やシュンドルボン・デルタの生態系を脅かす廃棄プラスチックの処理問題についての呼びかけを行いました。

このパイロットプログラムの成功に後押しされて、SOCEOはインドの他の地域で「チェンジメーカー」プロジェクトを再現することに決めました。チェンジメーカープロジェクトのこのフェーズにおけるAEPWの関与は終わりに近づいていますが、私たちはSOCEOと協力し、同様の教育プログラムを他の地域や世界中の人々に応用できるよう更なる取組を行っています。

インドでは、人口増加、急速な都市化、需要の増大に伴い、プラスチックの消費量が急増しています。その結果、インド中央汚染管理委員会の報告では、年間およそ350万トンの廃棄プラスチックが発生しています。

チェンジメーカー・パイロットプログラムには69カ所の学校が参加しています。まず最初にプロジェクトに参加する学校とパートナーを選出し、ベースラインスタディを実施して、生徒たちが廃棄プラスチックの問題とその影響をどのように認識しているか把握することから始めました。次にAEPWとSOCEOは、共同でピアツーピアの学習プログラムを開発しました。参加した若いエコインフルエンサーは、プラスチックの用途とプラスチック廃棄物管理について学ぶだけでなく、自分自身の行動を振り返り、変化の担い手になるのに必要なスキルと知識を身につけました。

彼らはごみ清掃活動を計画し、啓発活動や会議、ワークショップを開催するほか、最も重要なこととして、都市と農村のコミュニティでメッセージを拡散する機会を得ました。

カリキュラムは後に「教育学習活動教材」としてまとめられました。

チェンジメーカーズのシンプルなデザインは、そのインパクトとは裏腹です。廃棄プラスチックの量が増え、廃棄物管理がまだ未熟で、人々の行動がしばしば染み付いているこの国では、若い世代を通じたこの取組が広範囲に影響を及ぼす可能性があります。

パイロットプログラムの実施中、35カ所の学校が合計3トン以上の廃棄プラスチックを回収しました。素晴らしい結果ですが、さらに重要なことは、プロジェクト終了後に実施したアンケートで、カリキュラムに参加した生徒の95%が「路上にごみを捨てるのをやめると思う」と回答したことです。

シュンドルボン地域は貴重な生物の生息域であり、世界最大のマングローブ林があります。そこを流れるガンジス川、ブラマプトラ川、メグナ川は、世界で最も汚染された川と言われ、川に流出した廃棄プラスチックがマングローブの根にからまり、川と森の生態系を脅かしています。流域の野生生物が被害を受け、特に漁業で生計を立てる人々に影響を与えています。

1

2

3

1. カリキュラムの一環で生徒たちは啓発活動を行い、地域コミュニティにメッセージを伝えた。
2. 責任ある廃棄物収集管理について学ぶため、生徒たちは廃棄プラスチックを集めてリサイクルするよう学んだ。
3. 35カ所の学校が合計3トン以上の廃棄プラスチックを回収した。

東南アジア

クローントゥーイで廃棄プラスチックのバリューチェーンを実現する

場所
バンコク（タイ）

プロジェクトパートナー
タイ工業連盟、PPP PLASTICS、タイ持続可能な発展ビジネス協議会

達成事項

200
トン以上の廃棄プラスチックを2023年5月までに転用

2,000
人の参加

国連持続可能な開発目標

Eco Digiclean Klongtoei

バンコクの中心にあるクローントゥーイ地区では、住民がリサイクルの未来を握っています。

最近試験的に導入されたスマートフォンで使うウェブアプリ「リサイクルマーケット」は、地区のリサイクルエコシステムのプレーヤー（住民、企業、物流業者、回収業者、リサイクル業者）をテクノロジーで結びつけ、使用済みプラスチックを売買する透明性の高いマーケットを生み出しています。例えば、リサイクル業者はポストコンシューマーレジン（再生プラスチック）がリサイクルされる過程を追跡して、供給された材料の原産地と品質を確認することができます。

現在、2,000人ほどの住民がEco Digiclean Klongtoeiのパイロット事業に参加しており、分別した廃棄プラスチックを地区内の8つの収集場所に運び込んでいます。作業員は持ち込まれたごみを記録し、アプリでクレジットを発行します。このクレジットは現金に交換できます。

回収された廃棄プラスチックはアプリで売りに出されます。買い手（通常は個人回収業者、ジャンクショップ、リサイクル業者）は出品されたベール（資源プラスチックを圧縮・梱包したもの）を入札します。入札が承認されると、ベールは配送され、ルートはリアルタイムで追跡されます。

Eco Digiclean Klongtoei は、タイ工業連盟、PPP Plastics、タイ持続可能な発展ビジネス協議会によって2021年に開始されました。AEPWが資金を提供しています。

アプリと回収ポイントは2022年9月に試験的に投入され、住居地域、デパート、病院、オフィスをカバーしています。プロジェクトの目的は、さまざまなグループの人々に廃棄プラスチックの分別、リサイクル、取引をしてもらうには、何が動機付けになるのかを理解することです。アプリで収集されたデータによって行動パターンを把握し、リサイクルに対する地域のアプローチを最適化する出発点とすることができます。

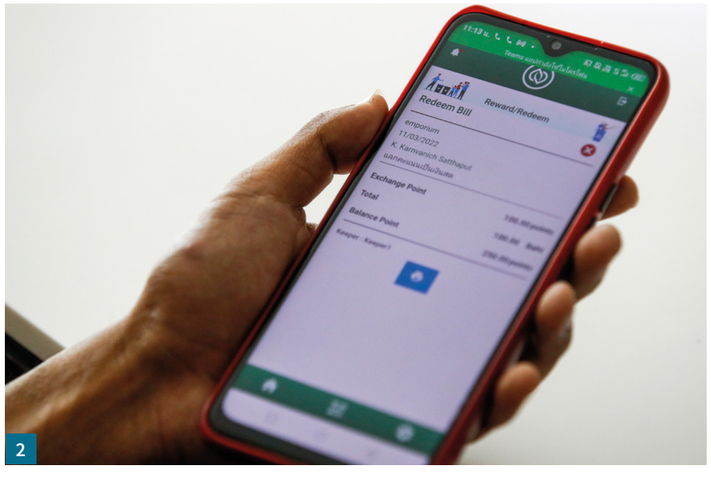
2023年5月時点で、200トン以上の廃棄プラスチックが回収されました。

人口が100,000人以上のクローントゥーイ地区は、多様なリサイクル行動の背後にある要因やさまざまな回収メカニズムの有効性を理解するのに最適な場所です。この地区はチャオプラヤー川、大規模港湾施設、主要な市場に近く、大量の廃棄プラスチックが発生するため、自然環境に流出する可能性があります。

1

タイには廃棄物管理システムがありますが、多くの消費者はごみの分別方法を知らず、ごみの多くが埋立地に持ち込まれています。消費者の行動変容を促し、より多くの資源ごみをリサイクルできるようにするため、回収者がごみの適切な分別方法を啓発しています。

タイは2027年までに廃棄プラスチックを100%リサイクルすることを目標に掲げており、Eco Digiclean Klongtoeiモデルはこの意欲的な目標の達成の一助になるかもしれません。バンコクの都知事はパイロットプロジェクトの効果を実感しており、パトゥムワン、パヤータイ、ノーンケームの3地区にこのモデルを水平展開することを支持しています。



2

1. コミュニティのごみ集積所。
2. Eco Digiclean Klongtoeiのリサイクルマーケットアプリは、現金に交換できるクレジットを発行して、分別したさまざまなごみの価値を消費者が理解できるようにしている。

東南アジア

廃棄プラスチックに関するイノベーション、投資、包括性を推進する

場所
東南アジア

プロジェクトパートナー
THE CIRCULATE INITIATIVE

達成事項

57

のスタートアップをインキュベーターを通じて直接支援

国連持続可能な開発目標

インキュベーションネットワーク

インキュベーションネットワークのプログラムを通じて、プラスチックバリューチェーンに関わる地元の小規模事業者や起業家は、アイデアを軌道に乗せるのに必要な支援を受けることができます。The Circulate InitiativeとSecondMuseが運営し、AEPWが共同出資するインキュベーターイニシアティブは、起業家に資本、ノウハウ、人脈を提供して、有望なアイデアの実現を後押ししています。

インキュベータープログラムには、Java Low-Value Plastics AcceleratorやThailand Plastics Circularity Acceleratorのようなその国独自のアクセラレータープログラムも含まれます。この他に、インドネシア、フィリピン、タイ、ベトナムでプラスチックの革新的なアップサイクルとリサイクルを目指すベンチャー企業を対象とするPlastic Waste to Value Southeast Asia Challenge（廃棄プラスチックを価値あるものへ・東南アジアチャレンジ）のような広域プログラムもあります。

350以上のスタートアップが、インキュベーションネットワークを通じて200万米ドル以上の資金提供を受けています。AEPWは、強固に統合されたプロジェクトのエコシステムを構築するために、このうち57のスタートアップを直接サポートしています。

例えば、Eco Digiclean Klongtoeiプロジェクトがその一例です（「クローントゥーイで廃棄プラスチックのバリューチェーンを実現する」のセクションを参照）。消費者、ごみ回収者、リサイクル業者を一つのアプリで結びつけるサービスは、廃棄プラスチックの回収・処理量を増やす可能性がありますが、地元のリサイクル業者の処理能力などがネックとなり、リサイクルできる量は価値の低い廃棄プラスチックの処理能力によって限られます。

Thailand Plastics Circularity Accelerator（タイ・プラスチック資源循環アクセラレーター）では、リサイクル可能な廃棄プラスチックのグレードを重視するタイ企業をサポートしています。

現在、地元の4つのスタートアップがソリューションの規模を拡大して、以前は価値が低いとみなされていた廃棄プラスチックの回収や販売を増やしています。

インドネシアでは、タイとは異なるアプローチで、廃棄プラスチックから価値を生み出しています。インドネシアのスタートアップPlustikは、分別施設を建設し、地元の人材を雇用して、価値が低く、リサイクルしにくい廃棄プラスチックを選別し、街の公園の舗装ブロックを製造しています。

Plustikは、Java Low-Value Plastics Accelerator（ジャワ・低価値プラスチックアクセラレーター）に参加しました。プログラムの目標は、AEPWのBersih Indonesia: Eliminasi Sampah Plastikプロジェクトで回収される価値の低い廃棄プラスチックのオフテイカー（買取業者）候補を見つけ、規模を拡大させることです（「インドネシアで統合的廃棄物管理を大規模に推進する」のセクションを参照）。

現在、Plustikは、ごみ埋立地に運び込まれる混合廃棄プラスチックの量を年間約1,800トン削減しています。

AEPWの資金とサポートを得て、インキュベーションネットワークは、この地域における公正で公平なプラスチック資源循環の実現に近づけました。

1

2

1. Plastic Waste to Value Southeast Asia Challenge（廃棄プラスチックを価値あるものへ・東南アジアチャレンジ）の参加者であるPLASTICPeopleは、さまざまな種類の廃棄プラスチックから安全で独創的な消費財を作っている。
2. Plastic Waste to Value Southeast Asia Challengeの参加者であるTerraCycle Global Foundationは、河川における廃棄プラスチックの流出防止や回収、リサイクルに関するソリューションをデザインするために、地域コミュニティと連携している。

日本

資源循環の問題を解決するために、日本の革新性を活用する

場所
東京（日本）

プロジェクトパートナー
カマン、レコテック

達成事項

9
の市町村・スタジアムが参加

88
のレストランとフードトラックが参加

3,100
回以上のテイクアウトで容器を使用

国連持続可能な開発目標

Meglooリユース容器

流行に敏感な街・渋谷の人気レストランは、ランチタイムは混雑します。美味しいお弁当のテイクアウト容器も、食べ終わればゴミ箱行きです。ただし、Megloo（メグルー）のリユース容器は、軽く洗ってから緑と白の専用ボックスに返却します。容器は回収後洗浄され、再利用されます。

このリユースモデルは、東京にほど近い鎌倉で、使い捨て廃棄プラスチックを減らすために始まりました。現在はAEPWの資金とサポートを得て、渋谷と横浜のほか、さまざまなイベント会場で実証実験を行っています。

まず始めに、Meglooのリユース容器を使用する飲食店に電話でテイクアウトを注文します。お店で調理して、軽量のポリプロピレン製リユース容器に詰めてもらい、支払いを済ませて受け取ります。日本で広く利用されているメッセージアプリのLINEを利用すれば、すべてのやり取りが簡単にできます。アプリで加盟飲食店に貸し出された容器の番号を追跡し、利用状況や容器の場所を確認できます。食べ終えた容器は、対応店舗や返却ボックスに返却し、回収後にもう一度洗浄され、再利用されます。

このプロセスは一つの容器について100回繰り返されます。2022年11月から2023年5月の間に、Meglooの容器は3,100回以上利用されました。

Meglooを開発した株式会社カマンは、今後このサービスをフードコート、イベント会場、オフィス、デリバリーサービスにも拡大したいと考えています。9つの市町村・スタジアムで、また88のレストランとフードトラックが、リユース容器を使用しています。再利用可能な容器に対する需要は高まっており、カマンは2025年までにおよそ50トンのバージンプラスチックの使用を回避して、CO_2排出量を削減できると見込んでいます。

日本は過剰包装気味で、サンドイッチやリンゴ1つでも包装されます。そのため日本は、ごみの厳しい分別ルールがあり、ごみのポイ捨てや不法投棄が禁止されているにもかかわらず、世界最大の廃棄プラスチック排出国の一つとなっています。

国連持続可能な開発目標

幸いなことに、日本のイノベーション文化がこの問題の解決に役立っています。Meglooは、AEPWの起業サポートプラットフォーム（End Plastic Waste Innovation Platform）とPlug and Playが始めたインキュベーションプログラムを通じて、AEPWのソリューションポートフォリオの一部になった2つのイニシアティブのうちの一つです。2022年に開催された日本でのプログラムで、Meglooの他に10社が支援を獲得しました。

POOLリサイクルシステム

スタートアップのレコテック株式会社は、2022年に日本ハブのプログラムでAEPWの起業サポートプラットフォームの支援企業に選出されました。レコテックのPOOLシステムは、焼却処分されていた廃棄プラスチックを貴重な資源プールに変えます。このシステムを活用して、軟質廃棄プラスチックを回収し、リサイクルレジン (PCR材) を製造して、さまざまなプラスチック製品に再利用することで、廃棄プラスチックの記録を完全に追跡することができます。ごみとして出たときから、再生プラスチックにリサイクルされるまでを、アプリを使用して可視化し、情報を一括管理できます。

レコテックは2022年11月から、東京都内の商業施設と連携して店舗で発生した軟質廃棄プラスチックを回収しており、関東、関西、名古屋、福岡、札幌など、その他のエリアの支店からも回収することを目指しています。レコテックは2026年までに14,000トンの軟質廃棄プラスチックを回収しリサイクルすることを考えています。

カマンとレコテックの2社は、AEPWの日本における最初のプロジェクトパートナーです。AEPWは日本で引き続き、開発とスケールアップが可能な新しいテクノロジーを模索していきます。

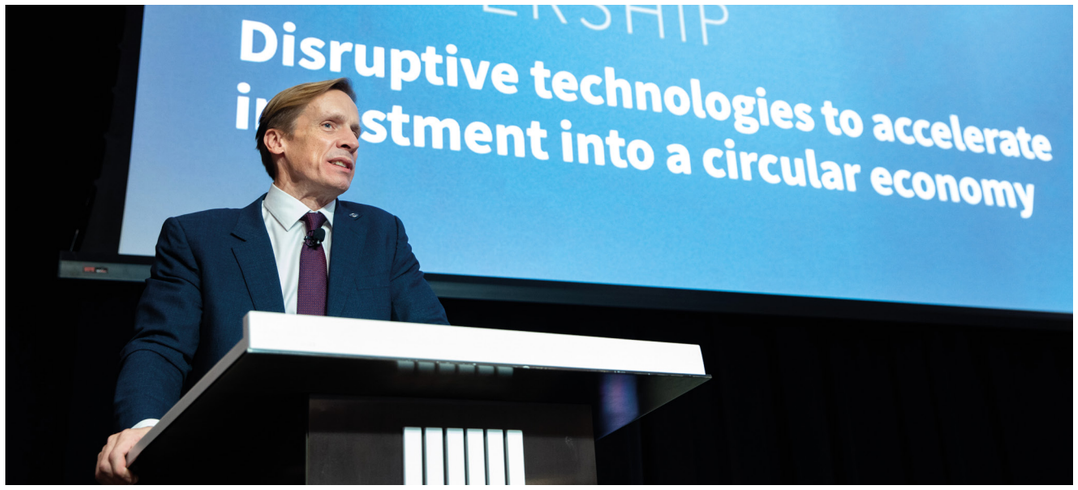
1

2

1. POOLシステムについて業界関係者と投資家にプレゼンテーションするレコテックのサーキュラリティデザイナー・坂内智恵氏。
2. Meglooリユースプロジェクトについて説明するカマンCEOの善積真吾氏。同プロジェクトは、AEPWの起業サポートプラットフォーム日本版で選出された11案件のひとつ。

インパクトファイナンス

AEPWの目標は、資金を動員して、プラスチック循環経済ーを生み出す新しいアイデアの実証実験に活用することです。資金の一部は私たちが自ら直接調達し、プロジェクトに投入しています。それと同時に、第三者からの資金調達も目指しています。



ニューヨークで開催のALL_Summit Leadershipで講演するジャスティン・ウッド。

AEPWは、大きく3種類の資金を調達・動員しています。

ソリューションアクセラレーターファンド

この資金は、AEPWの会員企業が支払う年会費から調達され、通常はグラントまたは譲許的融資の形でプロジェクトの資金として使用されます。2033年末までに、累計2億2,500万米ドルの資金が配分されました。

会員主導のコミットメント

この資金は、AEPWへの加盟にあたり、会員企業がプラスチックに関連する自社の持続可能性プロジェクトに投資することを誓約する際に提供する資金です。この誓約（プレッジ）は、AEPWの会員になるときに表明する「Member Directed Commitment (MDC)」と呼ばれるものの一部です。会員企業の中には、MDC資金を自社のプロジェクトではなく、AEPWのプロジェクトや、AEPWのプロジェクトに密接に関連した活動に投入する企業もあります。

触媒的資本

この資金は、AEPWが会員企業以外の企業から動員する資金です。資本市場、政府、開発金融機関、政府系投資ファンド、ファミリーオフィスから調達します。AEPWの目標は、このような第三者組織に対し、私たちのプロジェクトへの共同出資や、私たちの活動に関連するアイデアへの出資を働きかけることです。この主な例としては、ロンバー・オディエ・インベストメント・マネージャーズのプラスチックサーキュラリティ・ファンドがあります。触媒的資本に関する報告は2023年のプログレスレポートで行う予定です。

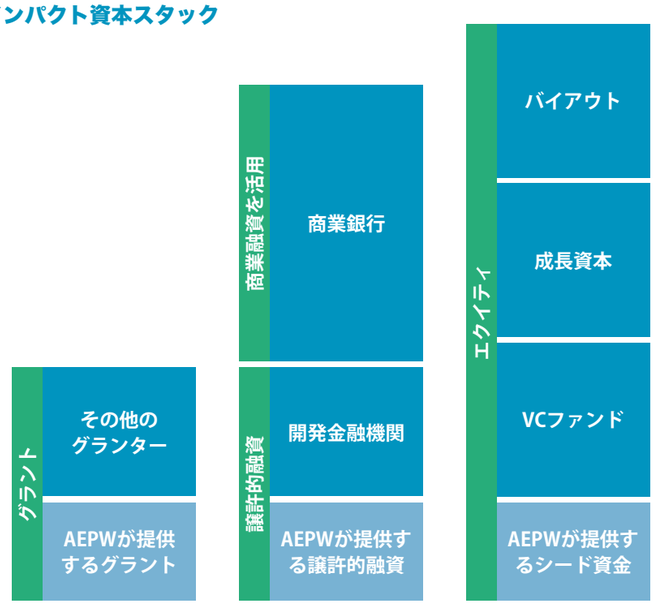
AEPWは慈善団体であるため、資金調達の種類と「リターンの期待」はその他の金融機関とかなり異なります。一例を挙げると、AEPWは通常、経済的リターンよりもインパクトリターンを期待して、グラントまたは譲許的融資を行います。私たちとは対照的に、プライベート・エクイティは魅力的な内部収益率を求めます。これは、AEPWの資金と第三者の資金をクリエイティブに組み合わせた強力なブレンデッド・ファイナンスが可能になることを意味します。

多くの点で、AEPWが直接コントロールしている資金は、これがなければ投資しなかったであろう第三者の資金を呼び込む触媒機能を果たしています。つまり、AEPWの資金によってプロジェクトのリスクを軽減し、商業資本がプロジェクトのスケールアップと水平展開に資金を提供できるようにするのです。AEPWは通常、初期段階にあるプロジェクトの資本支出に資金を提供しますが、成長段階でスケールアップが見込まれるプロジェクトに運転資金を提供することもあります。初期段階の資金提供は、革新的なアプローチやテクノロジーがどのようなものか評価する必要があり、本質的にリスクが高くなります。しかし、資本構成と技術的観点の両方からリスクを軽減することができます。

通常の資金調達手段の他に、革新的なテクノロジーを迅速にスケールアップすることができる、新たな資金調達手段が必要なのです。このことが、ESG投資に力を入れるロンバー・オディエ・インベストメント・マネージャーズと提携して、プラスチック循環経済への移行を加速するインパクト・プライベート・エクイティ・ファンドの設立につながりました。2022年5月に発表されたプラスチックサーキュラリティ・ファンドは、プラスチック資源循環の向上のようなニッチな投資分野に触媒的資本を呼び込むために、外部金融機関と機関投資家から5億米ドルの資金を調達することを目標としています。AEPWは、コーナーストーン投資家として1,000万米ドルを投資することをコミットしています。

このファンドの目的は、廃棄プラスチックによる環境汚染を削減または回避するために、ソリューションを提供または促進し、プラスチックのバリューチェーンにおける温室効果ガスの排出量を削減することに取り組む民間企業または事業体のポートフォリオに投資することです。AEPWは5年間の投資フェーズにおいて、ファンドのテクニカルアドバイザーを務めます。

インパクト資本スタック



会員企業のコミットメントの評価

AEPWは、既存または入会予定の会員企業の投資がMDCの要件を満たしているか判断する枠組みを開発しました。このアプローチにより、会員企業の取り組みはAEPWの目標に沿ったものである必要があります。

AEPWは会員企業のプロポーザルをいくつかの基準によって評価します。プロポーザルは以下の条件を満たす必要があります。

追加性 – 提案内容がAEPWの目標に貢献する新しいプログラムや取り組みであること

マテリアリティ – 提案内容が管理されていない廃棄物の除去や回避に貢献し、企業のステークホルダーの他に、住民や地域社会に対して明確なメリットをもたらすことを示していること

会員企業のコミットメントの多くは複雑で、完全に実施するには何年もかかります。このような場合、会員企業はプロジェクトに支出する金額を正式に宣言するよう求められます。この金額は、他の会員企業による適格なプロジェクトの確定している支出金額と合算され、AEPWの報告書にMDCの合計金額として記載されます。

会員による適格なプロジェクトの総額10億2,500万米ドルにのぼり、すでに5億3,200万米ドルが支出されています。

イノベーションを実現する

1

廃棄プラスチック汚染の問題はグローバルな政策課題となっていますが、多くの国では解決策が存在しないか不十分な状況です。世界経済フォーラムのイニシアティブ「Global Plastic Action Partnership」のレポートによると、2040年までにプラスチック循環経済に移行するには、研究、インフラ整備、管理コストに1兆2,000億米ドルという途方もない費用がかかるとされています。

AEPWは、環境中に廃棄プラスチックが流出するのを食い止めるイノベーションを支援しています。私たちは自らの取り組みのインパクトを最大化することを目指しています。これには資金を動員して、プラスチック循環経済を生み出す新しいアイデアの実証実験に活用することや、グリーンフィールド型のイノベーションを積極的に推進することが含まれます。

End Plastic Waste Innovation Platform

End Plastic Waste Innovation Platform　（プラスチック廃棄物に終止符を打つスタートアップを募るイノベーションプラットフォーム。またはEPWIP）は、初期投資家、スタートアップ、企業をつなぐグローバルなイノベーションプラットフォームであるPlug and Play Tech CenterとAEPWが共同で創設したプラットフォームです。プラスチック汚染問題のソリューション開発に取り組む約3,000社のスタートアップ企業を、サンフランシスコ、パリ、シンガポール、サンパウロ、東京、ヨハネスブルグにあるEPWIPのプラットフォームにおいて評価しています。EPWIPを通じてスタートアップ企業とPlug and Playの投資家・企業パートナーネットワークを結びつけることで、いくつかのスタートアップ企業は大きく成長しました。

例えば、ブロックチェーン技術を活用することでトレーサビリティと透明性を提供するOceanworksは、プラスチック業界で実績のある企業と協業しています。カマンとレコテックはAEPWが資金提供したプロジェクトで成長したスタートアップで、カマンはリユースモデル、レコテックはリサイクルシステムの構築が高く評価されました（「実証実験ソリューション」のセクションを参照）。

2022年末までに、160以上のスタートアップと220以上のパイロット事業が、AEPWが資金提供するEPWIPを通じてさらに発展しています。対象となったスタートアップ企業の進捗状況から試算した結果、AEPWが初期段階に行った500万米ドルのシード投資によって、過去3年間に1億7,000万米ドル以上の追加投資が行われました。

アライアンス賞：軟包装材に関する循環型ソリューション

残念なことに、資本投資だけでは、廃棄プラスチックの除去に必要なイノベーションを生み出すことはできません。プラスチック問題の規模は大きく、革新的な資金調達手法やインセンティブに基づく仕組みが必要です。

2022年4月、AEPWは軟質廃棄プラスチックに取り組む新たなソリューションの模索を開始しました。

2

3

1. 廃棄プラスチックを無くすイノベーションプラットフォームで評価されたスタートアップは、グローバルハブを通じてインパクトをもたらすことが可能に。
2. EPWIP日本ハブの選考日。
3. AEPWが資金提供するカマンのMeglooリユース容器プロジェクトは、テイクアウト容器のシェアリングモデルを構築。

イノベーションを実現する

1

2

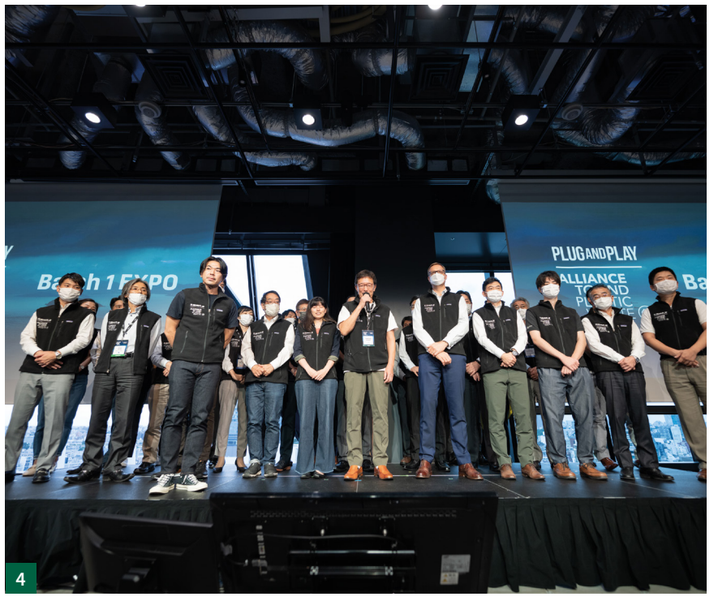
アライアンス賞は、起業家、資本、技術的専門家をつなぐプラットフォームでもあります。コンテストには世界中から600件ほどの申し込みがあり、年末までに60件の提出があり、ソリューションのインパクト、拡張性、実現可能性、革新性が評価されました。

300万米ドルの賞金を獲得したのは、水の代わりに低圧超臨界二酸化炭素を使用してポリオレフィンフィルムの汚れを除去する独自の洗浄プロセスを提案したNextekのCOtooCLEANプロジェクトです。賞金はプロジェクトの資金に充てられます。このソリューションによって、使用済みプラスチックの除染が容易になり、食品グレードのレジンにリサイクルしやすくなります。

イノベーションを育成することで、地域の廃棄プラスチック管理能力が向上し、バリューチェーンにおける創造力と専門知識を活用して、プレーヤーが根源的な課題から学び、ソリューションを適用できるようになります。

3

1. EPWIPシリコンバレーハブでのスタートアップ企業によるプレゼンテーション。
2. AMP Roboticsは再生可能な材料を分別するロボットシステムを開発。
3. Recycleyeは人工知能、画像認識、リサイクルロボットを使用して、廃棄物管理業界向けに自動化されたターンキーソリューションを開発。
4. EPWIP東京ハブのスタートアップ企業。



4

コラボレーションを促進する

AEPWの設立当初から、廃棄プラスチックの回収と管理を改善するアプローチの根底にあるのは、コラボレーションです。

環境に流出する廃棄プラスチックをゼロにする、というのは野心的な目標です。この複雑な問題に対するソリューションを生み出すには、世界、国、地域レベルで、政府、企業、市民社会、金融機関、大学すべてが、一丸となって協働することが必要です。

グローバルな視点を提供

AEPWは、国と地方自治体の政府を含む、すべてのステークホルダーと連携します。私たちは国や地域のニーズや要件を理解するために、国連主催のものも含むさまざまなフォーラムにオブザーバーとして参加しています。廃棄プラスチックの管理とリサイクルの分野におけるAEPWの技術的知見は高く評価されており、専門知識や科学的知識を幅広く共有しています。また、私たちは既存の政策決定の実情を明らかにしています。

AEPWは、国連環境計画と気候変動枠組条約の認定企業・業界代表として、交渉と意思決定は国連加盟国の特権であるという基本原則に基づき、関連する政府間会議に参加しています。

AEPWは、マルチステークホルダーフォーラム、サイドイベント、主要グループ、マルチステークホルダー・ダイアログから有益なインサイトを得ています。これには、NGO、科学技術コミュニティ、国や地方自治体の代表者とのコミュニケーションも含まれます。このようなグループは、プラスチック汚染をなくすために必要な主な活動、将来の国際的に法的拘束力のある制度を通じて取り組む機会と課題、さらなる団結とインパクトをもたらすことについて、さまざまな形で情報交換を行っています。

1

2

包括的なアプローチをサポートする

2022年3月、AEPWは、ナイロビで開催された国連環境総会にオブザーバーとして参加し、プラスチック汚染をなくすための国際的に法的拘束力のある文書について交渉する権限が与えられました。ストックホルムでは、各国政府、市民団体、金融機関、業界関係者を集めて、プラスチック資源循環の実現に向けた資金調達のアイデアを共有するとともに、各国が直面する最も喫緊の課題について共通理解を図るための支援を行いました。

いかなる場においても、AEPWは、地域や国のニーズとキャパシティを考慮した包括的なアプローチに貢献することを目指し、地域コミュニティ、国、インフォーマルセクター、自治体、市民社会、民間部門との協力を推進しています。

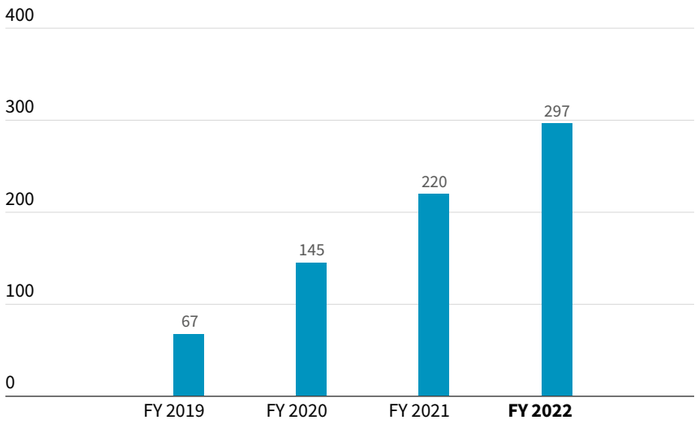
1. マラン県のバパック・サヌシ知事とともにタランガングごみ埋立場を訪れたAEPW。
2. ブラジル政府により新しい法令が通過したことで、NGO Recicleirosがごみ処理施設の労働者のために掲げた目標の達成に向けてさらに前進するだろう。

財務概要

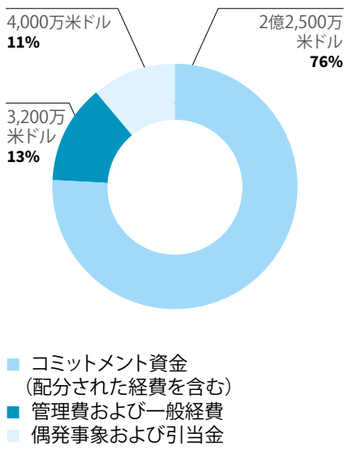
2022年12月31日現在

2022年にAEPWは7,700万米ドルの収入を得ました。これにより、2019年設立以来の累計総収入は2億9,700万米ドルとなりました。このうち76%（2億2,500万米ドル）が、プロジェクトやその他のミッションに関連した活動に割り当てられました。

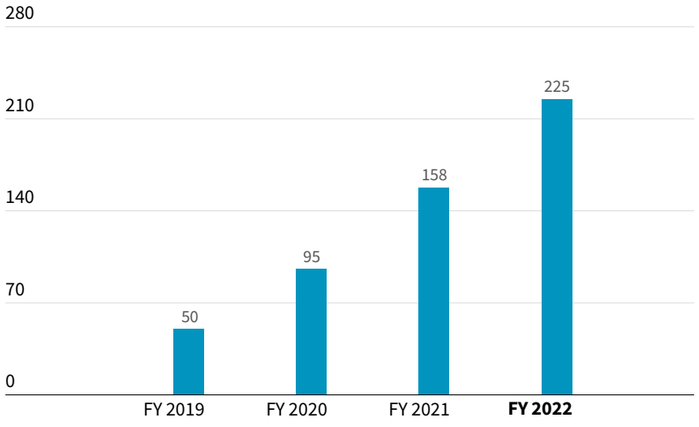
総収入、ソリューションアクセラレーターファンド（累計、単位：万米ドル）



累計資本配分

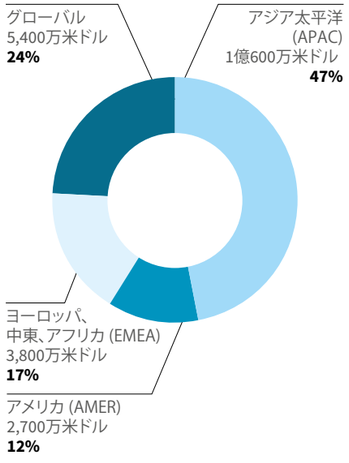


総資本配分、ミッション関連（累計、単位：万米ドル）



地域別資本配分、ミッション関連

（2019年設立時からの累計）



ガバナンス

2022年12月31日現在

リーダーシップチーム

AEPWのリーダシップチームは、環境中の廃棄プラスチックをなくすというミッションを実現するための戦略的アプローチを策定し、実行します。

ジェイコブ・デュアー
プレジデント

ソフィア・ポルチェリ
CFO兼オペレーション担当、バイスプレジデント

ニコラス・コレシュ
プロジェクト担当、バイスプレジデント

アリソン・リム
コーポレート＆パブリックアフェアーズ担当、バイスプレジデント

ジャスティン・ウッド
戦略的パートナーシップ担当、バイスプレジデント

スティーブ・シクラ
バイスプレジデント兼アメリカ統括責任者
（2022年12月31日退任）

ガバナンス

AEPWは、ガバナンス、説明責任、透明性に関するベストプラクティスに取り組んでいます。私たちの役員、執行委員会、取締役会は、AEPWの戦略的アプローチについてインサイトを提供するとともに、各階層のチェック・アンド・バランスを確保しています。

役員

役員は戦略の方向性を導きます。

ジム・フィッタリング
AEPW会長、ダウ会長兼最高経営責任者

ラモン・ラグアルタ
AEPW副会長（2022年12月31日まで）、ペプシコ会長兼最高経営責任者

トム・サルモン
AEPW財務責任者、ベリーグローバルグループ会長兼最高経営責任者

執行委員会

執行委員会は、AEPWの予算、プログラム目標、重要な方針、規則の承認について取締役会に勧告を行います。また、新規会員、戦略的提携、後援者、アドバイザーの承認、リーダーシップチームへのプロジェクトに関する助言を行います。

取締役会

取締役会は取締役全員で構成され、経営陣の監督を含むAEPWの全般的な監督に責任を負います。取締役会は執行委員会からの提案を検討し、投票を行います。

ガバナンス

常任委員会

メンバーシップ委員会

メンバーシップ委員会は、会員企業の入会案内、エンゲージメント、維持のための活動を支援します。AEPWのスタッフが会員を増やすための勧誘戦略を立てることを支援し、AEPWの取締役会メンバーがアンバサダーとして新しい組織にAEPWについての広報・宣伝活動を行うことを奨励します。また、会員資格の要件や特典を見直す提案について助言を提供し、会員経験の質をチェックします。メンバーシップ委員会の委員長は、執行委員会と取締役会に会員数の推移や勧誘活動について定期的に報告を行います。

監査委員会

監査委員会は、AEPWの財務ガバナンス、リスク管理、内部統制の状況を監視し、執行委員会に報告します。監査委員会は、上記の各項目を検討し、執行委員会の承認を得て、これらの分野における方針の適切性と有効性について取締役会に助言を行います。監査委員会は、独立監査人、AEPWの経営陣、内部監査人、および執行委員に向けて開かれたコミュニケーションの場を提供します。

報酬委員会

報酬委員会は執行委員会によって任命され、役員に報告し、AEPWの上級幹部に対する報酬パッケージを評価および承認する取締役会の責任を遂行します。報酬委員会は、多様性、公平性、包摂性に関するAEPWの価値観とベストプラクティスの精神に則り、報酬と福利厚生に関するすべての決定について検討し、役員の承認を得るための提案を行います。

アドバイザリーカウンシル

2021年に、公共部門、市民社会、学術界、国際機関のリーダーで構成される諮問委員会が設置されました。アドバイザリーカウンシルは、戦略、優先事項、業務についてプレジデント兼CEOに専門的な助言を提供します。2022年12月31日現在のメンバーは以下の通りです。

イヴォンヌ・アキ=ソーヤー、OBE

フリータウン市長、シエラレオーネ

アクセル・ボルヒマン

連邦環境・自然保護・原子力安全・消費者保護省局長補佐、ドイツ

フアン・ミゲル・クーナ

環境天然資源省フィールドオペレーション・環境担当次官、フィリピン

カルロス・シルヴァ・フィーリョ

国際廃棄物協議会（ISWA）会長、ブラジル

リンダ・ゴッドフリー教授

ノースウエスト大学、および廃棄物研究・開発・イノベーションロードマップのマネージャー; プリンシパルサイエンティスト、科学産業研究会議（CSIR）、南アフリカ

キーフ・ハリソン

リサイクリング・パートナーシップ創設者兼最高経営責任者、米国

梶原成元

公益財団法人　廃棄物・3R研究財団（JWRF）理事長

リア・カラー博士

シニア環境オフィサー、地球環境ファシリティ（GEF）

李 道季教授

海洋プラスチックごみ研究センター長、華東師範大学

ネットワーク

AEPWのミッションを実現するため、私たちは90を超える企業、市民団体、組織からなる世界的なネットワークを構築して、廃棄プラスチックの問題が深刻な地域で成果を出すことに全力で取り組んでいます。

AEPWの会員企業は、有意義なインパクトを生み出すために連携を強化しています。プラスチックのバリューチェーン全体と直接協働してはじめて、廃棄プラスチックに、可視化できる真のインパクトを長期的に与えることができると私たちは考えています。

執行委員会メンバー

amcor, BASF, Berry, Chevron Phillips Chemical, DOW, ExxonMobil, lyondellbasell, Mitsubishi Chemical Group, PepsiCo, P&G, SABIC, Shell, TOMRA, TotalEnergies, Veolia

会員企業

ALPS, AMPACET, aspentech, Atlantic Packaging, AVIENT, BOXCO WORLD, BoReTech, Braskem, Clariant, CNG Charter Next Generation, covestro, elegro technology, ENEOS, ENGEL, Enterprise Products, EQUATE Partners in Success, erema group, esenttia, Formosa Industries, Formosa Plastics, GEMINI, GREIF, greiner, Henkel, INABATA, INDEVCO, interpipeline, JG Summit Olefins Corporation, KIRIN, Milliken, Mitsui Chemicals, NOVA Chemicals, NOVACEL, NOVOLEX, ORIGIN, OxyChem, Pregis, Red Avenue, Reliance Industries Limited, sasol, SCGC, SEE, Sinopec, SKC, STOROpack, SUMITOMO CHEMICAL, Taghleef Industries, TRICON, UNILOY, Universal Robina, versalis, vinmar, Westlake, yeloworld

戦略的パートナー

各分野のリーダーがAEPWの戦略的パートナーとなり、プロジェクトについての情報提供、選定、実行を支援してくれます。

Clean Ocean Material Alliance, giz Deutsche Gesellschaft für Internationale Zusammenarbeit (GIZ) GmbH, Global Plastic Action Partnership, ISWA, JICA, University of Leeds, The Circulate Initiative, UN-Habitat For a Better Urban Future, UNIDO, USAID From the American People, wbcsd, wrap

後援者

後援者はAEPWの取り組みを熱心にサポートしてくれます。彼らがもたらす専門知識、インサイト、斬新な視点によって、私たちのグローバルなインパクトを最大化することができます。

accenture, BAIN & COMPANY, BCG, EY, IBM, KEARNEY, Roland Berger

ALLIANCE TO END PLASTIC WASTE

あなたもともに課題を解決しませんか。
詳しくはウェブサイトをご覧ください。
endplasticwaste.org

廃棄プラスチックを無くす国際アライアンス（AEPW）は、米国デラウェア州の法律に基づき設立された非営利団体で、米国内国歳入法501条(c)(3)が規定する非課税の公共慈善団体です。環境中の廃棄プラスチックの根絶をミッションに掲げています。本レポートに掲載されている写真は、AEPWのプロジェクトパートナーおよび会員企業の厚意によるものです。すべての写真の著作権は、それぞれの所有者に帰属します。AEPWは、特に明記しない限り、本レポ ートに掲載された写真の所有権を主張するものではありません。

本レポートの内容は、一般的な情報提供を目的としています。レポートに記載されている情報を提出したAEPWおよびその会員企業は、レポートの内容の完全性、信頼性、正確性について保証するものではなく、また内容の誤りや漏れついていかなる責任も負いません。本レポートはAEPWの許可なく変更することはできません。

Copyright 2023 © Alliance to End Plastic Waste. All rights reserved.